

学校だより

四日市市立八郷小学校発
平成24年2月22日発行

《 No.28 》

【今年度最終のクラブ活動】～クラブ指導者との懇談会～

2月15日（水）が、今年度最終のクラブ活動でした。

八郷小学校では、7年前より、地域の専門家、技能者の方にボランティアをお願いし、「お茶・お花」「日本舞踊」「お琴」「編み物」「囲碁・将棋」「朝明川生物クラブ」の6つのクラブと手助けをいただく「料理」のクラブをつくり、活動を進めています。

その意図して、「日本の文化を大切にしたい」「経験することの少ないであろう文化を体験できる機会としたい」、そして、「地域の自然を使った活動の中で、経験の幅を広げたい」ということです。

今回は、今年度最後のクラブ活動ということで、指導者の皆さんから今年度のクラブ活動を振り返ってのご意見や感想をいただきました。

○ お琴クラブ

時間数は足りないが、子どもたちが楽しんで活動してくれることが一番です。礼儀作法、挨拶、演奏を聞くなど、人を思いやることを大切に指導してきました。

○ お茶・お花クラブ

6年生の部長さんがきちんと挨拶をしてくれます。関心の持ち方もお茶・お花半々で、子どもたちは新しいことに興味を持つものだと思います。これからも、子どもたちが興味を持つことを考えて取組んでいきたい。

○ 日本舞踊クラブ

一年一年、子どもたちが替わってしまうのが残念です。まして、稽古の日数が足りないので十分力を伸ばすことが難しい。今年は「男踊り」を取り入れましたが楽しんでもらえたので、今後もそのような傾向の踊りも取り入れていきたい。

○ 編み物クラブ

時間が足りないので、作品を完成させるのが難しかった。でも、みんな一生懸命に取り組んでくれたので、編み目がそろうようになってきました。かぎばりの形状から左利きでの編み物はできないが、努力して克服した子はほめてあげました。

○ 囲碁・将棋クラブ

女の子や2年続けて入ってくれた子もいました。今年は、リーグ戦やトーナメント戦を取り入れましたが、将棋を指導する時間が短くなってしまったことは反省です。

○ 朝明川生物クラブ

まずは地域の自然を使って思い切り遊んでほしい。その中で、いろいろな生き物のことや環境問題を調べたり、考えたりするきっかけになってくれればと考えています。

◎ 全体を通して

伝統文化を伝える、伝統文化を学んだ子を伸ばす道筋ができていないことが残念です。そういった道を作っていきたいと思います。中学校でも機会を作ってもらえればボランティアとして指導したい。

日本人として、「礼に始まり礼に終わる」、挨拶・礼儀を大切にしていきたい。



この日は、3年生のクラブ見学でした。自分たちの興味のあるクラブの様子を見て回っていましたが、上記、外部指導者のクラブ参観では、自然に静かに、中には正座をして見学していました。真剣に指導していただく姿、真剣に教えてもらう子どもたちの醸し出す「緊張感」がそのようにさせるのではと感じました。

伝統文化を体験できるクラブ活動の場を設けることも、学校の使命の一つではないかと、指導者の方々のお話を聞き感じたところです。

裏面に続きます

《名取市立^{ゆりあげ}関上小学校への支援品・支援メッセージの用意ができました》



《ラグビーボールと掃除機》



《各学年のメッセージ》

今年度当初から児童会が取り組んできました「関上小学校」への支援の品物と子どもたちのメッセージがそろいました。

「関上小学校」の子どもたちに体育の学習や遊びに使ってもらうラグビーボール 17 個、校舎の清掃に使ってもらう掃除機 2 台が届きました。そして、品物といっしょに送る子どもたちのメッセージも完成しました。

「自分たちの労働の対価を贈る」ことを目標に活動を進めてきましたベルマーク収集作業の結果、PTAの援助を受けて、相手校の希望する10万点分の品物を送ることができます。改めて保護者の皆様に感謝を申し上げます。

今まで、ベルマーク収集作業はPTAの皆さんにお任せの状況にありました。今回の支援に向けての取組みを通して、子どもたちも保護者の皆さんの取組みに感謝する気持ちや共に活動することの大切さを理解してくれたのではないかと思います。



また、「自分たちにもできること

がある」「みんなの力が集れば、大きな力になる」ということに気づいてくれたことと思います。

《子どもたちのベルマーク作業・牛乳パックの箱入れ作業》

支援のメッセージの他にも、「千羽鶴・花の種」もいっしょに送ります。間借りしている小学校での勉強が続く関上小学校の子どもたちに元気を受け取ってもらい、八郷小学校の子どもたちとの心の交流の第一歩になればと思います。そのためにも、この取組みが継続させていきたいと考えています。

《廃品回収収益金による学級図書を購入》



《今年度購入いただいた学級用図書》

にあります。その弱みをなくす取組みとして、毎年PTAより図書を購入していただき「本のある教室」を作り上げてきています。現在、学級文庫として、各学級150冊～200冊ほどが置いてあります。学級の文庫を学年間で交換することで3倍の本が身の回りになることになります。

学級文庫は、図書館用図書に廃棄になったものもありますが、今までに廃品回収の収益金で買っていた本も数多くあります。今年も、廃品回収の収益金により、学級用図書、開放用図書を70万円分購入していただきました。本校の子どもたちの年平均読書量70冊をより増やし、読書好きの割合を増やすためより指導を進めていきたいと思えます。ご支援、ありがとうございました。

本校の図書館の強みとして、子どもたちの教室と離れた場所にあり、校舎と図書館を切り離すことができることにより、学校が休みの日でも「開放図書」として利用できることです。反対に弱みとして、教室から図書館まで距離があるため、休み時間に本を借りに行くのに時間がかかるということ